

2-1 関数について

初級編のテキストで「SUM（合計）」「AVERAGE（平均）」「COUNT（個数）」「MAX（最大値）」「MIN（最小値）」の5つの関数について取り上げました。

これらの関数を利用することで、“長く複雑になりやすい計算式を短く簡単にまとめる”ことができるのはご存じのとおりです。

中級編では、実務でよく利用される代表的な関数を取り上げますので、ぜひ理解して使いこなしましょう。

2-1-1 関数の書式

全ての関数は一定の書式で統一されています。関数は必ず等号「=（イコール）」から始まり、関数名、引数（ひきすう：括弧で囲まれた箇所）と続きます。

=関数名(引数 1,引数 2,引数 3,・・・)

前頁の例の場合、=（等号、イコール）で始まり、「SUM」が関数名、「(A1:A3)」が引数となります。

関数を利用した計算式

	A	B
1	100	
2	200	
3	300	
4	← =SUM (A1:A3)	

ポイント 引数とは

引数とは、関数の計算対象となる範囲や数値、文字列などを指しています。

上記の例では「(A1:A3)」にあたります。

関数によっては複数の引数が必要なものもあります。

引数と引数の間には必ず「,（カンマ）」を入力する必要があります。

通常は後述の「数式パレット」を利用しますので直接手入力の機会は少ないですが、一度入力した関数を修正する場合に必要となりますので、引数はカンマで区切る、ということを覚えておいてください。

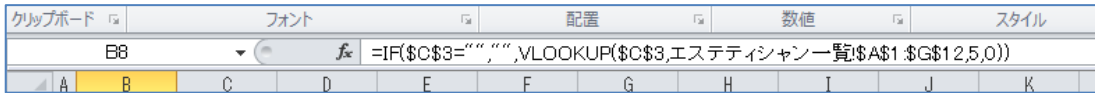
2-2 関数の入力方法

関数は複数の方法で入力することができます。

ポイント 関数の入力方法

- 直接入力

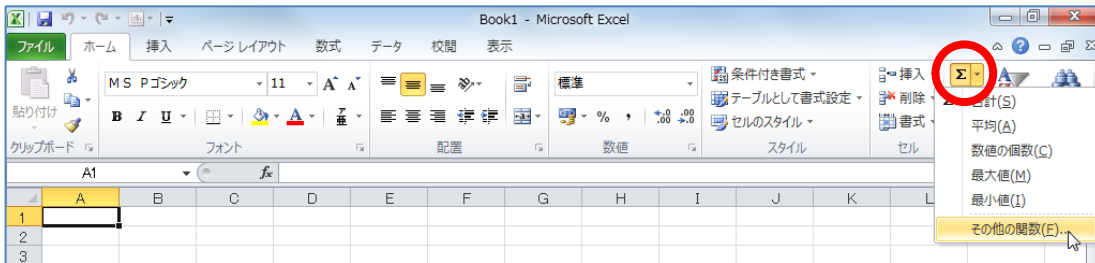
関数は計算式ですから、「セル」や「数式バー」に直接入力することができます。



- 《合計》ボタン

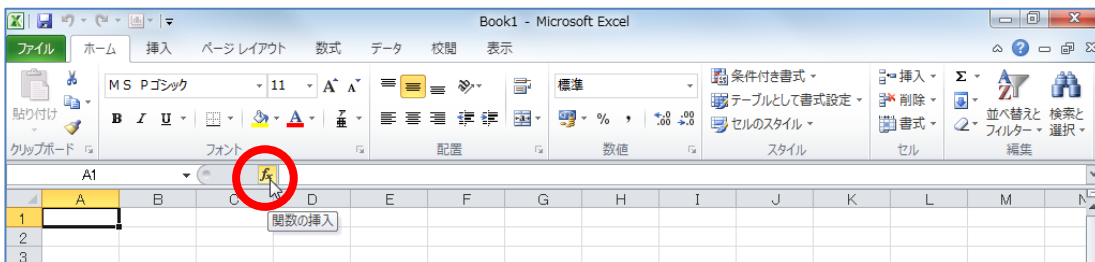
《合計》ボタンから、5つの関数を選ぶことができ、さらに

《その他の関数(F)》を選べば、多数の関数を選択することが可能です。

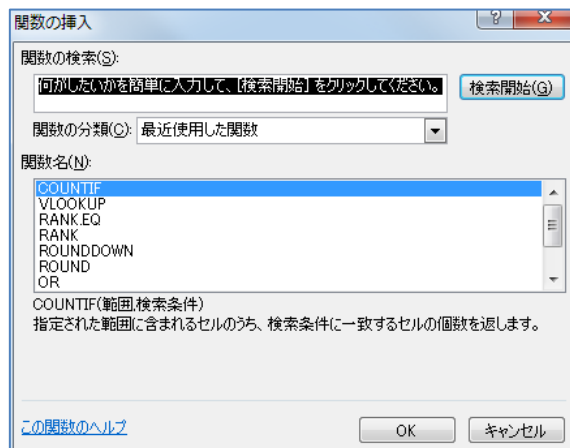


- 《関数の挿入》ボタン

《関数の挿入》ボタンをクリックすると、《関数の挿入》ダイアログボックスが表示され、そこから関数を選ぶことができます。



《合計》や《関数の挿入》ボタンをクリックすると、《関数の挿入》ダイアログボックスが表示され、そこから関数を選択しましょう。

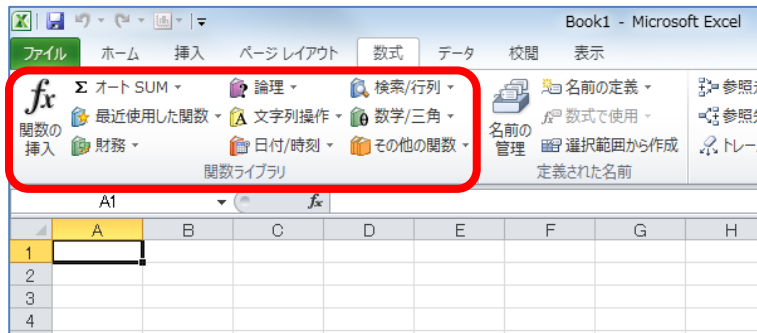


次のページへ続きます

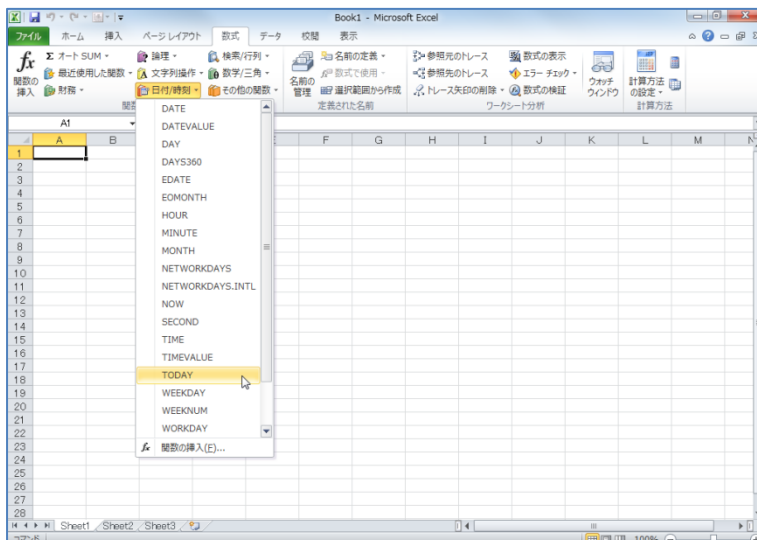
ポイント 前のページの続きです

● 《関数》ライブラリ

《数式》タブ内の《関数ライブラリ》グループから、関数の種類を示したボタンをクリックし、選択することも可能です。



関数の種類を示すボタンをクリックすると、関連する関数の一覧が表示されます。



このテキストでは、《数式》バーの《関数の挿入》ボタン ***f_x*** を利用して進めていきますが、それにこだわらず、他の方法で入力していただいても構いません。

2-3 条件を付けて処理を分ける（分岐する）関数

「10個買っていただいたお客様には金額から5%引きする」「テストの点数が70点以上なら合格にする」など、式や数値の結果で処理を分ける（分岐）するような関数式を作ることができます。実務で表計算を行う場合に大変便利な関数ですから、ぜひ学習してください。

2-3-1 条件分岐（IF 関数）

条件を分岐するには、IF（イフ）関数を利用します。

設定する条件は“論理式”というもので表します。

その論理式の条件を満たす場合の結果を“真^{しん}の場合”、満たさない場合の結果を“偽^ぎの場合”で設定します。

「真^{しん}の場合」「偽^ぎの場合」の部分に、それぞれの結果である数値や文字列、計算式などを入力します。

また、その結果に文字列を利用する場合は“〇〇”のように、半角のダブルクォーテーションで囲みます。

例：売上が80以上の時は結果に「達成」、そうでない時は「未達成」と表示させる場合

	A	B	C
1		売上	結果
2	1月	65	未達成
3	2月	85	達成
4	3月	76	未達成
5	4月	92	達成

=IF(B2>=80,"達成","未達成")

=IF(B3>=80,"達成","未達成")

=IF(B4>=80,"達成","未達成")

=IF(B5>=80,"達成","未達成")

書式 =IF(論理式,真^{しん}の場合,偽^ぎの場合)

ポイント 比較演算子

処理を二つに分けるための条件式を「論理式」と呼びます。

その論理式の左辺と右辺の間には“比較演算子”というものを入力します。

比較演算子	内容	意味
=	等号	左辺と右辺が等しい
>	～より大きい	左辺が右辺より大きい
<	～より小さい	左辺が右辺より小さい
>=	～以上	左辺が右辺以上
<=	～以下	左辺が右辺以下
<>	不等号	左辺と右辺が等しくない

ここでやりたい内容は？

エステティックサロンへの新規来店者が「10」名以上であれば「A」、それ以外（9名以下）は「B」としましょう。

利益率	店名	新規	リート	新規評価	来店評価	仕入額	ネット	売上額	利益額	利益率
	江田島本店	12	241			24,857		31,547		
	桜台店	8	154			15,474		20,143		
	陽光駅前店	7	120			14,972		18,524		
	エビテ地下街店	11	198			22,463		29,142		
	集計									

①

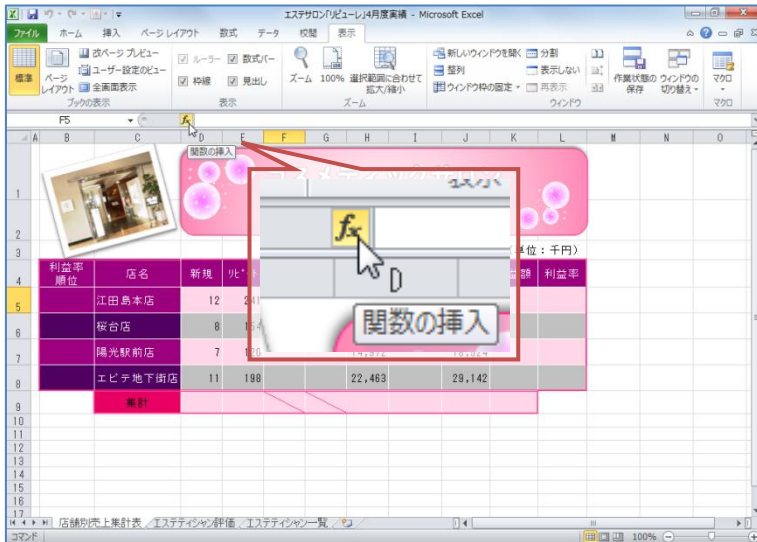
ファイル「エステサロン「リビューレ」4月度実績」を開きましょう

②

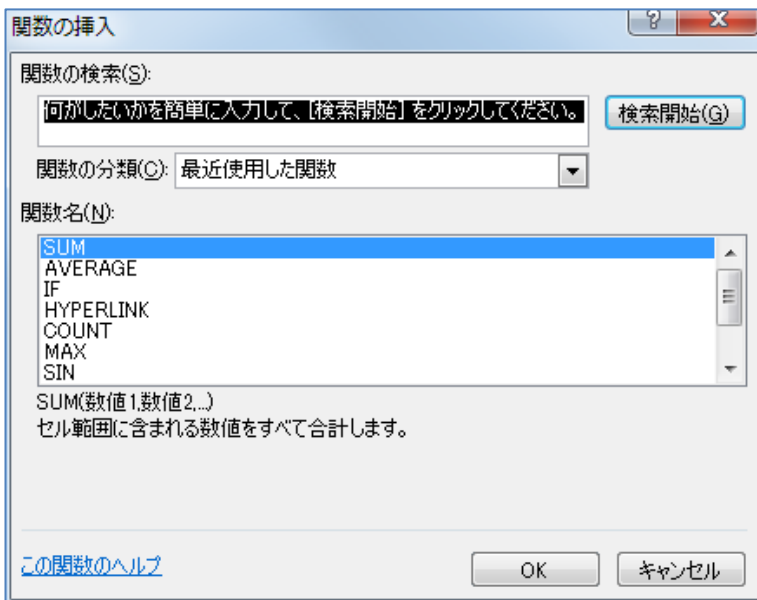
シート見出し「店舗別売上集計表」をクリックしましょう

③

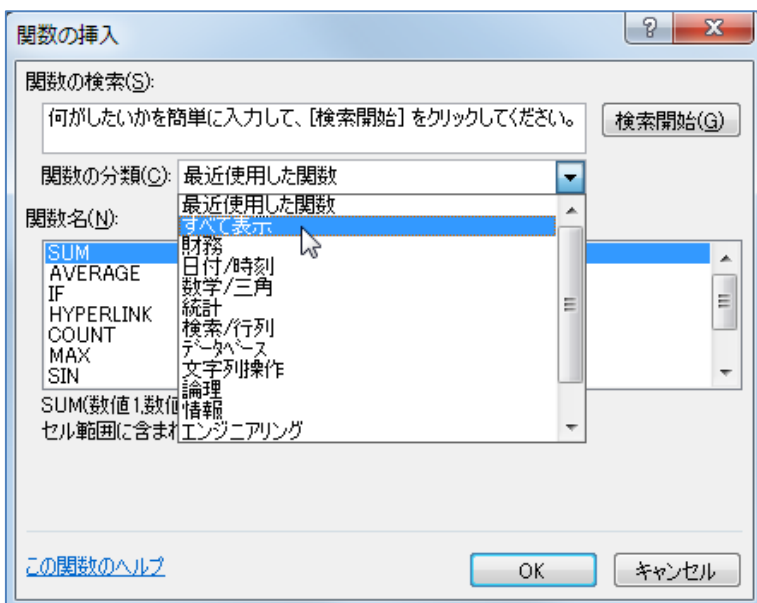
式を作成したいセル「F5」をクリックして選択しましょう



④
《関数の挿入》ボタンをクリックしましょう

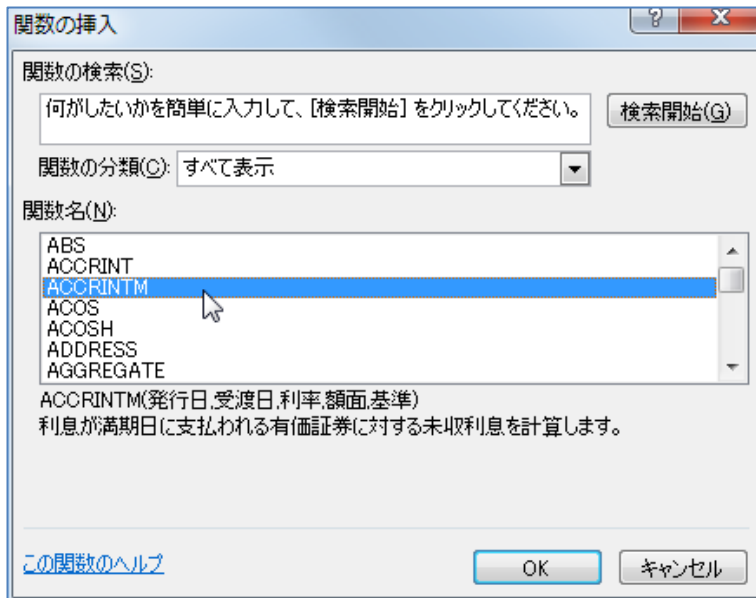


《関数の挿入》ダイアログボックスが表示されます



⑤
《関数の分類(C)》の▼をクリックしましょう

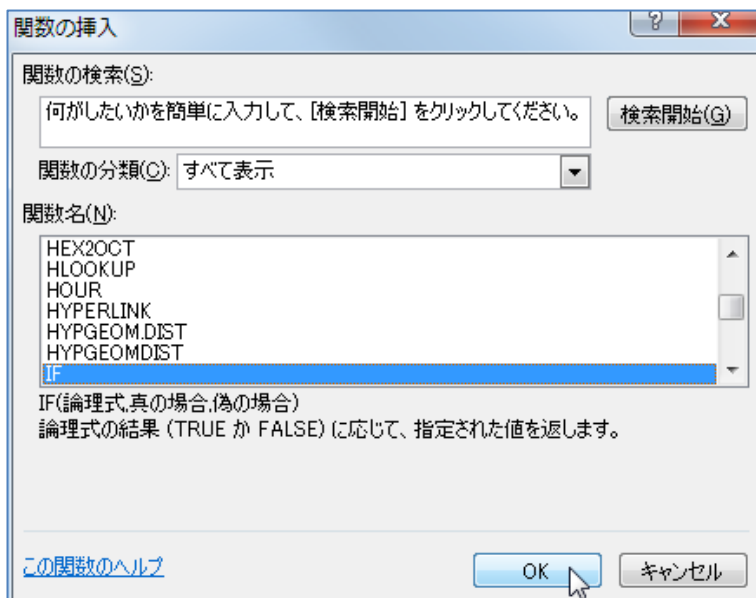
⑥
表示された一覧から《すべての表示》をクリックしましょう



⑦
任意の（好きな）関数名をクリックしましょう

⑧
日本語入力をオフにしましょう

⑨
キーボードの【I（アイ）】を押しましょう
★IF 関数の「I（アイ）」です



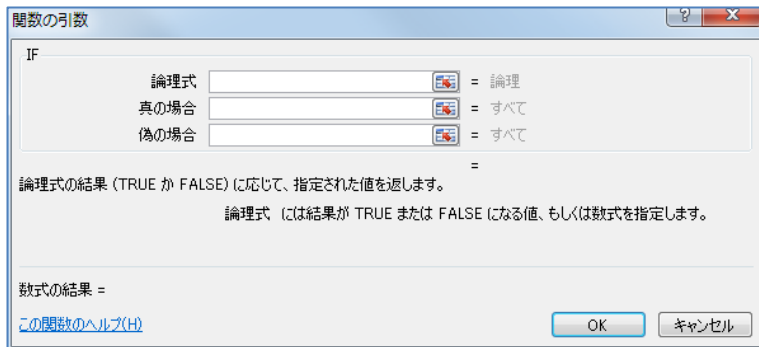
先頭に「I（アイ）」の付く関数までジャンプします
★この場合、たまたま IF 関数が I（アイ）の付く関数の先頭のため IF が選択されます

⑩
《OK》をクリックしましょう

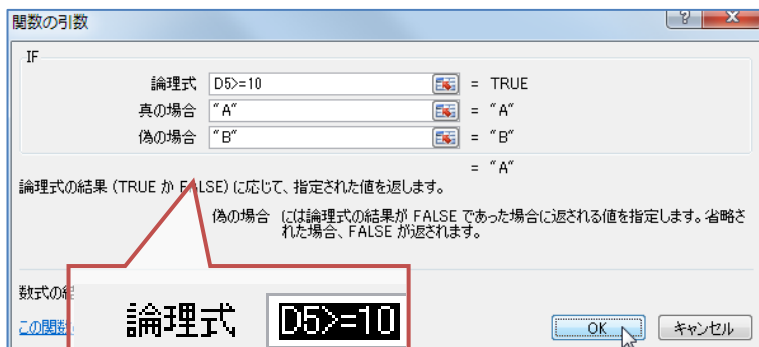
参考 関数のヒント

関数名をクリックと、リストボックスの下に関数のヒントが表示されます。

IF
IF(論理式,真の場合,偽の場合)
論理式の結果 (TRUE か FALSE) に応じて、指定された値を返します。



《関数の引数》ダイアログボックスが表示されます



論理式 D5>=10
 真の場合 "A"
 偽の場合 "B"

⑪
 《論理式》にボックスに「D5>=10」と入力しましょう

⑫
 《真の場合》ボックスに「"A"」と入力しましょう
 ★ダブルクォーテーションマーク「"」は半角で入力しましょう

⑬
 《偽の場合》ボックスに「"B"」と入力しましょう
 ★ダブルクォーテーションマーク「"」は半角で入力しましょう

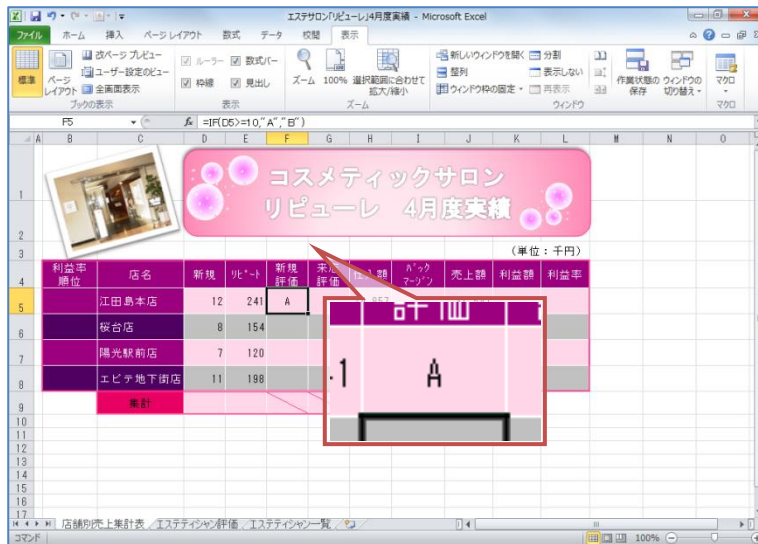
⑭
 《OK》をクリックしましょう

ポイント 自動的に式に付けられる「"（ダブルクォーテーションマーク）」

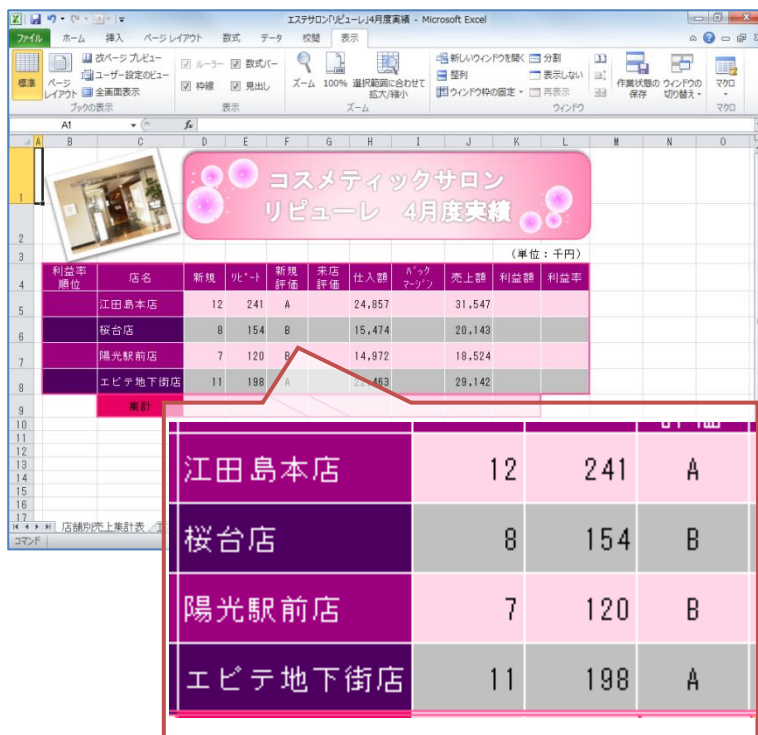
《関数の引数》ダイアログボックスで、式の引数として「文字列」を入力したあと、【Tab】キーを押すか、別のボックスなどへカーソルを移動させると、自動的に「"（ダブルクォーテーションマーク）」が付きます。

ただし、式をセル内へ直接入力しているような場合には自動的に付きませんので、自分で入力する必要があります。

テキストでは「入力しましょう」と指示しますが、自動でつけられた場合はあえて入力する必要はありません。



セル「F5」に「A」と表示されます
★セル「D5」が「12」のため



やってみよう
残りの店舗も同様に、新規来店者の評価を行いましょう
★オートフィルなどを使えば簡単にコピーが取れますが、練習のため、それぞれ最初から関数式を作成しましょう

2-3-2 関数のネスト

「ネスト（入れ子）」とは、“関数の引数に関数を使う”ことです。

例えば、先ほどの新規顧客評価で、10名以上はA、6～9名はB、それ以外はCとしたい場合、式は次の通りとなります。

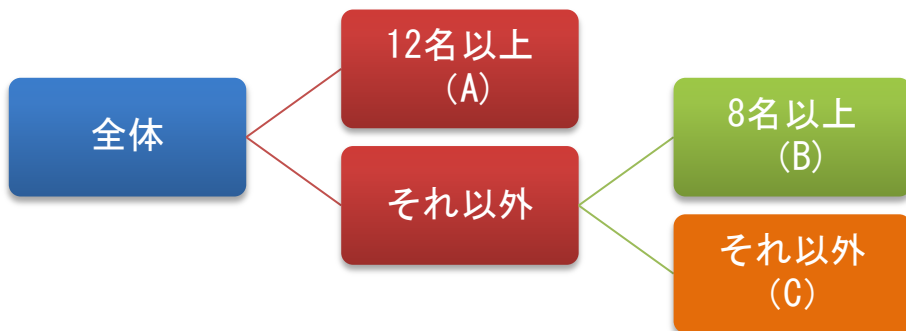
$$=IF(D5 \geq 10, "A", IF(D5 \geq 6, "B", "C"))$$

ネスト部分

ここでやりたい内容は？

エステティックサロンへの新規来店者が「12」名以上であれば「A」、それ以外で「8～11」名なら「B」、7名以下なら「C」としましょう。

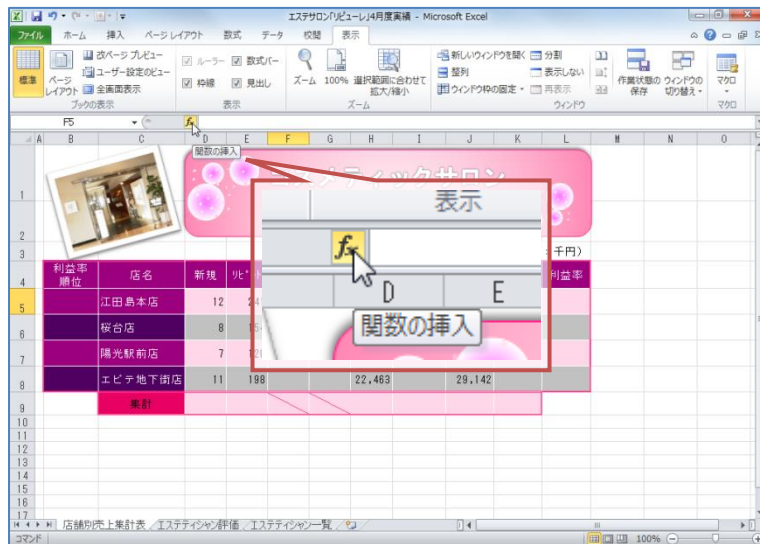
参考 論理式の考え方：



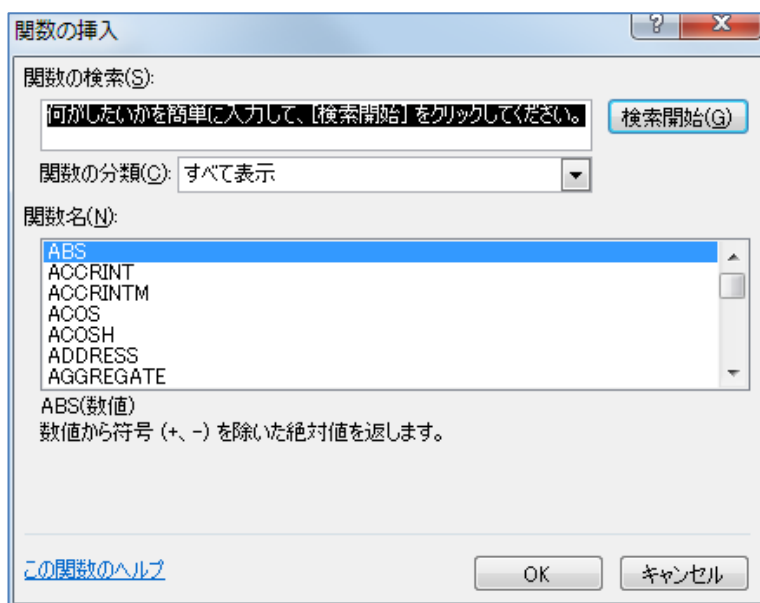
利益率	店名	新規	リビューレ	新規評価	来店評価	仕入額	バックマージン	売上額	利益額	利益率
	江田島本店	12	241			24,857		31,547		
	桜台店	8	154			15,474		20,143		
	陽光駅前店	7	120			14,972		18,524		
	エビテ地下街店	11	198			22,463		29,142		
	集計									

①
セル範囲「F5:F8」のデータを削除しましょう

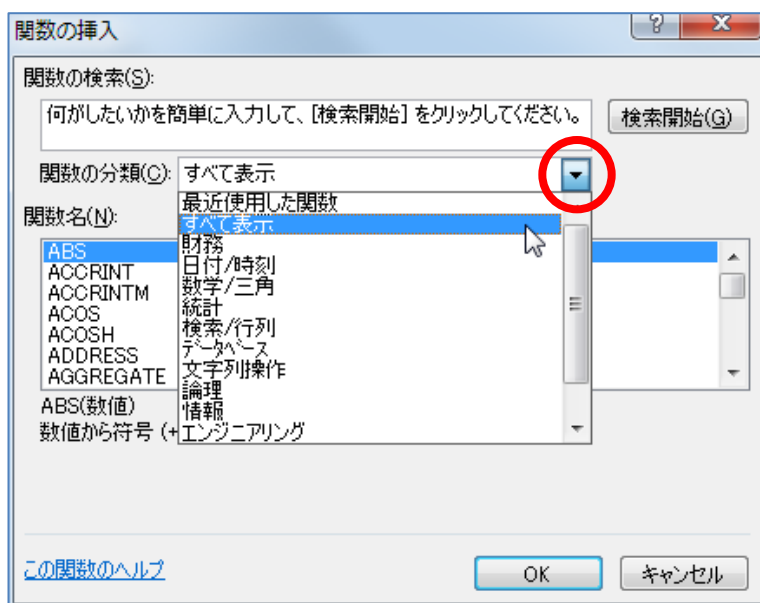
②
セル「F5」をクリックしましょう



③
《関数の挿入》ボタンをクリックしましょう



《関数の挿入》ダイアログボックスが表示されます



④
《関数の分類(C)》の▼をクリックしましょう

⑤
表示された一覧から《すべて表示》をクリックしましょう